

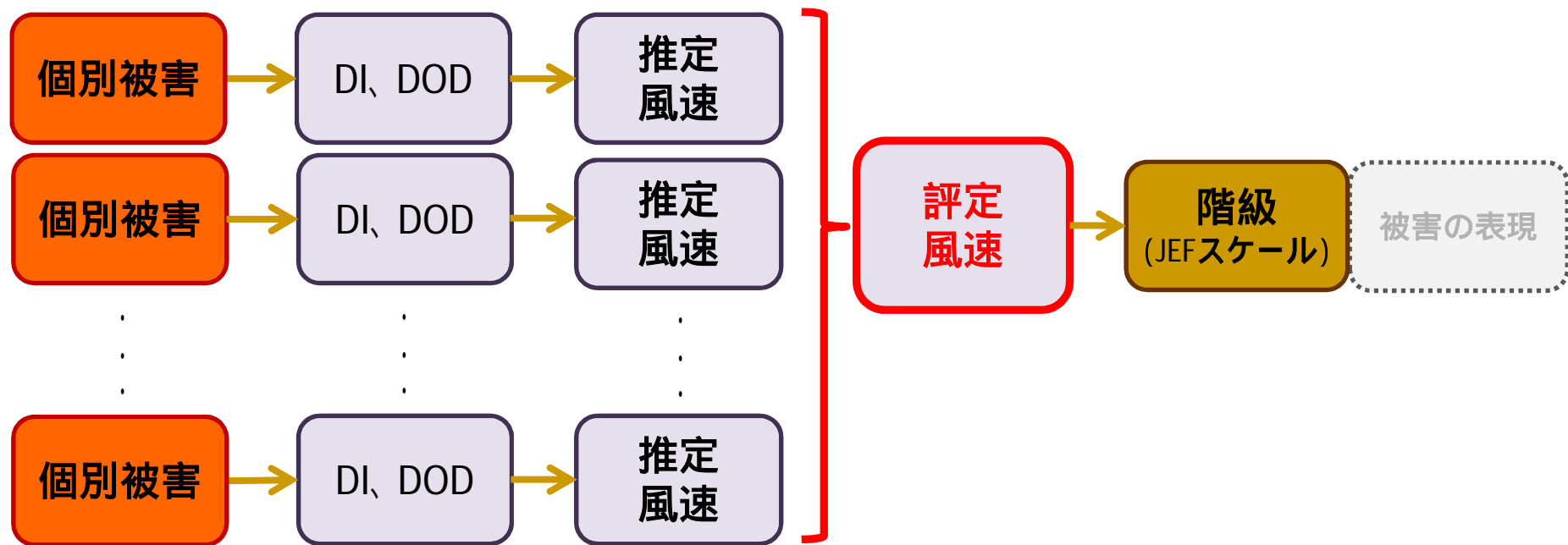
現象を代表させる推定風速の 決定方法について

気象庁

日本版改良藤田スケールにおける評価

(第3回検討会資料より)

提案する日本版改良藤田スケールの評価手順



1. 日本版改良藤田 (JEF) スケールの評価手法では、個別被害を被害指標 (DI) 及び被害度 (DOD) に対応させ、それぞれについて風速を推定する。
2. 複数の推定風速値から、現象を代表させる推定風速 (評価風速) を決め、階級に当てはめることでJEFスケールを求める。

1. 個別被害から風速を推定する方法(案)

(1) 被害指標(DI)・被害度(DOD)を用いた風速の推定

- ✓ 被害指標(DI)・被害度(DOD)に対応する推定風速は、被害を発生させる標準的な風速と考えられる「期待値」と、その被害を発生させ得る風速の限界値である「上限値」「下限値」を持つ。
 - 例えば、住家の屋根が飛散した場合、柱の本数が多いなど構造が強い屋根は「上限値」まで耐えられるが、構造が弱い屋根は「下限値」でも飛散する。
- ✓ 個別被害の推定風速は、DI・DODに対応する推定風速の「期待値」を原則として採用する。

(2) 個別被害の風速をより精度よく推定するための方法

- ✓ 「木造住家」など耐風強度の個体差が大きな被害指標(DI)について、建築物に関する知見が少ない気象台職員でも推定風速をより精度よく推定できるよう、以下のような方法を検討する。

(一案)

DI・DODから得られる推定風速の「下限値」または「上限値」に対応することが、専門知識がなくても判別できる場合は、推定風速に「下限値」や「上限値」を採用する。

2 . 評定風速の決定方法 (案)

これまでのFスケールによる評定

個別被害の藤田 (F) スケールを求め、その中で最大のものを、現象を代表する藤田 (F) スケールとして評定。



JEFスケールによる評定

これまでと同様の考え方で、個別被害の推定風速の中で最大のものを評定風速とし、評定風速に対応する階級値を、現象を代表する日本版改良藤田 (JEF) スケールとして評定。

評定したJEFスケールと共に評定風速を公表する。その際、評定風速の「上限値」と「下限値」も合わせて公表する。